

ピブリア

発行 いわき市平上荒川字長尾30
福島工業高等専門学校
編集 図書館委員会
昭和58年12月5日

No. 51

福島高専 図書館報

◆ 卷頭言 ◆

読書の楽しみ

たのしみは珍らしき書人^{かき}にかり始め一ひらひろげたとき
たのしみはそぞろ読みゆく書^{かき}の中に我とひとしき人をみしとき
たのしみは世に解きがたくする書^{かき}の心をひとりさとり得しとき(曙覧歌集)

今年も、校門内の並木の銀杏が鮮やかに色づいた。時折り、突風に吹き上げられた黄葉が、陽光を返して舞い散る様は見事である。一瞬、黄葉が、晴天目掛けて放たれたかと思粉うばかりである。

銀杏落葉の乱舞のあとには、冬が駆け足でやって来る。冬の陽差しは弱く、夜は長い。地上を駆け抜ける木枯しのざわめきをよそに、虫たちは、穴に蟄居し、長い夜をひっそりと眠り、人も又、沈潜へと向う。こうして人たちは、読書の季節を迎える訳である。読書の季節は何も秋に限られているわけではない。夜は思索の時である。思索は読書を養分としてその深さを増して行く。夜の長い冬は読書の季節でもあるのだ。

厳しい冬の寒さを避けて、温かい屋内に籠り、気に入った一巻の書物を繙く楽しみを、学生諸子は味わったことがあるであろうか。若し未だなら、この冬は、数冊の書物を用意して、読書に沈潜する籠居の生活を送って見給え、そうすればきっと、その一冬の生活が、来る春に息吹き始める諸君等の精神の活動を、より活々としたものにしてくれるであろう。とにかく、読書の楽しみとは、体験してみなければ分からないものなのだ。

さて、上に掲げた三首の短歌は、江戸時代末期の歌人橋曙覧の作品である。曙覧自身の体験を通してとらえた「読書の楽しみ」の一相を、なかなか見事に表現し得ていて「妙」である。苦心の末によりやく手にすることが出来た書物の一頁を、初めて開こうとする時のわくわくするような思い。自分の考えと等しい考えの持主を本の中に見出し、その本に共鳴を覚えた時の、安らかな満足感。そして、難解な書物に挑戦して、ようやくその著者の思想を悟り得た時の、思わずハタと膝を打って浮べる会心の笑み等々、いずれも、読書の楽しみを体験した時の魂のゆらめきをとらえて、それを歌に託しているのである。読書の楽しみとはまさにこうしたものであろう。

この冬は、とにもかくにも、これ等曙覧の歌のひそみにならって、遮二無二「読書の楽しみ」を我がものとして見ては如何なものであろうか。冬休みを前に、これ等三首の歌を、敢て学生諸君に贈る所以である。

K・N記

目次

巻頭言	1	新着図書目録	11
本校視聴覚教育設備について	2	新着図書案内コーナー	16
私の読書(1・2年特集)	6	寄贈図書	16
「ピブリア」原稿募集	11	当館のあゆみ	17

本校視聴覚教育設備について

各種機器利用のてびき

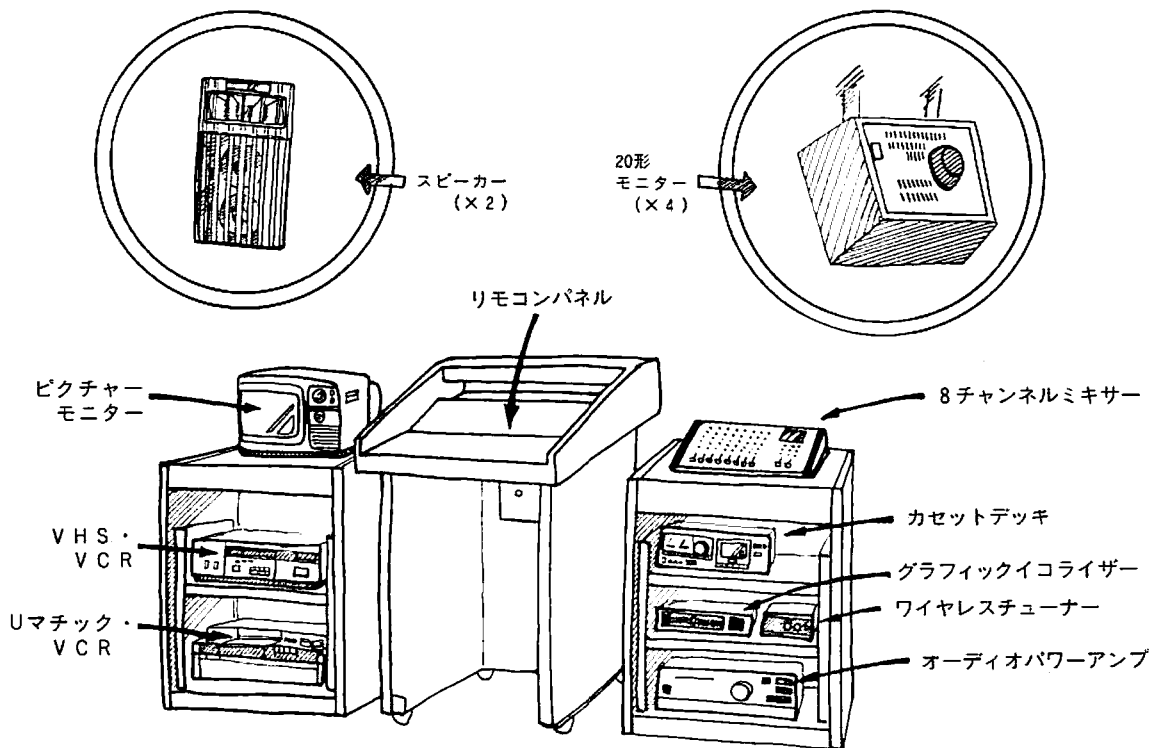
本校の図書館は学生諸君の知識、情報源の中核とし活発に活動しています。また、効果的な教育を目的とした、視聴覚教室を拠点とする種々の視聴覚機器が設置されています。今年本校の創立22年目になりますが、この度、視聴覚教室の音声調整装置の更新を行ったので、この機会に本校の視聴覚教育設備とその運用の現状について皆さんに紹介します。

1. 設備の概要

本校の視聴覚教育設備は(1)視聴覚教室、(2)中ゼミナール室、および(3)図書閲覧室にあります。その他に(4)ポータブルビデオシステムが図書係に保管されています。

現在、視聴覚機器の主体はビデオ機器にあります。当初はUマチックという規格のやゝ大き目のカセット(テープ)を使用するものが設置され使用されてきました。その後昭和56年の設備充実の際に一般家庭用VHS規格のVCR(ビデオカセットレコーダ)を導入しました。技術の進歩は目覚ましくビデオカセットも一段と小形に、また安価になりました。家庭用としてβマックス規格もあります。ビデオ技術の動向をにらみ、本校ではVHS規格のVCRを採用しました。これから暫くの間は、UマチックVCRとVHS・VCRを並用し、ゆくゆくはVHS・VCRに一本化したいと考えています。

では、各部の設備の概要を順に説明します。



(視聴覚教室)

(イラストはE大原浩一君による)

表1 視聴覚教室の主な機器

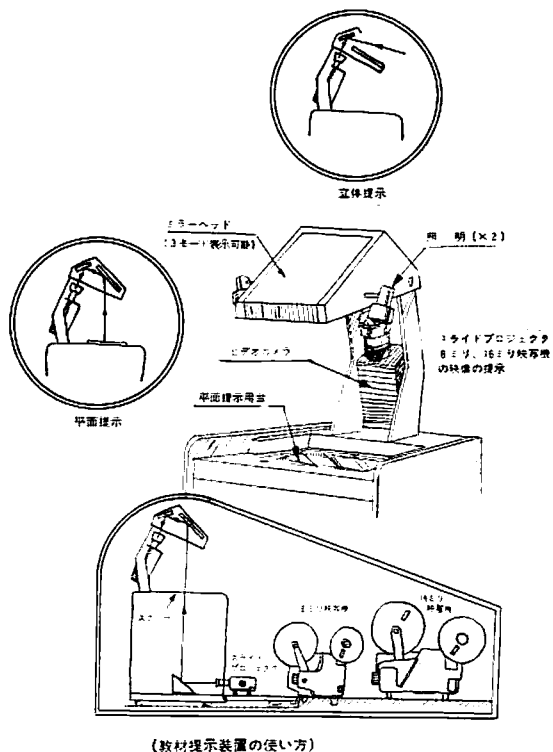
品名	型式	台数
カセットビデオコーダー	ソニーVO-1720 (Uマチック)	1台
テレビ受像機 (20形)	ソニー	2台
“ (20形)	ビクター	2台
35mm映写機	エルモ1000	1台
16mm “	ベルハウエル1658 他	2台
8mm “	エルモP-300AV	1台
16mm “ (フリッカレス)	北碛SC-10S	1台
スライド映写機	キャピタルマルチワイド60	1台
オーディオカセットデッキ	ビクターKD-A33	1台
ビデオカセットレコーダ	“ HR-7650 (VHS)	1台
“	“ HR-3750 (“)	1台
ビームスピーカー	“ SBM 315形	1式
テレビ受像機 (14形)	ソニー	1台
教卓 (含リモコンパネル)		1台
教材提示装置 (含ビデオカメラ)	ビクターAV-316	1式
☆ OHP	ウチダ IP-910	1台
☆ ビデオ卓及びミキサー卓	ビクター	各1
☆ ワイヤレスマイク	“ WM-80-1	1
☆ “ チューナー	“ WT-51 X	1
☆ 10端子SEAイコライザー	SEA-33	1
☆ ステレオアンプ	“ A-X 55	1
☆ 8チャンネルミキサー	“ SS-M208	1

注) ☆は新設機器

(1) 視聴覚教室

図1のブロック図に示すように、学生諸君は教室内の4台のモニターで画像を視聴することができます。VCRの音声は従来はモニターに内蔵のスピーカーで聴いていましたが、教室の前面に設けられている2個のスピーカーで聴くよう変更しました。一段と良い音質が得られています。VCR以外の音声もこの前面スピーカーを用います。

従来の音声調整装置は映写室にありましたが、新設の装置は室内に設置しました。左のイラスト



のように教卓の両サイドにビデオ卓とオーディオ卓を置き、それぞれの機器を収納しております。したがってVCR、8チャンネル・オーディオ・ミキサー、カセット・デッキなど機器の操作、調整を手元で行なうことができるので、よりきめのこまかい取扱いができるようになりました。マイクロホンはワイヤレスマイクとし、グラフィック・イコライザーの使用と相まって一層使い易くなったものと考えています。

視聴覚教室には、此の外に教材提示装置もあり

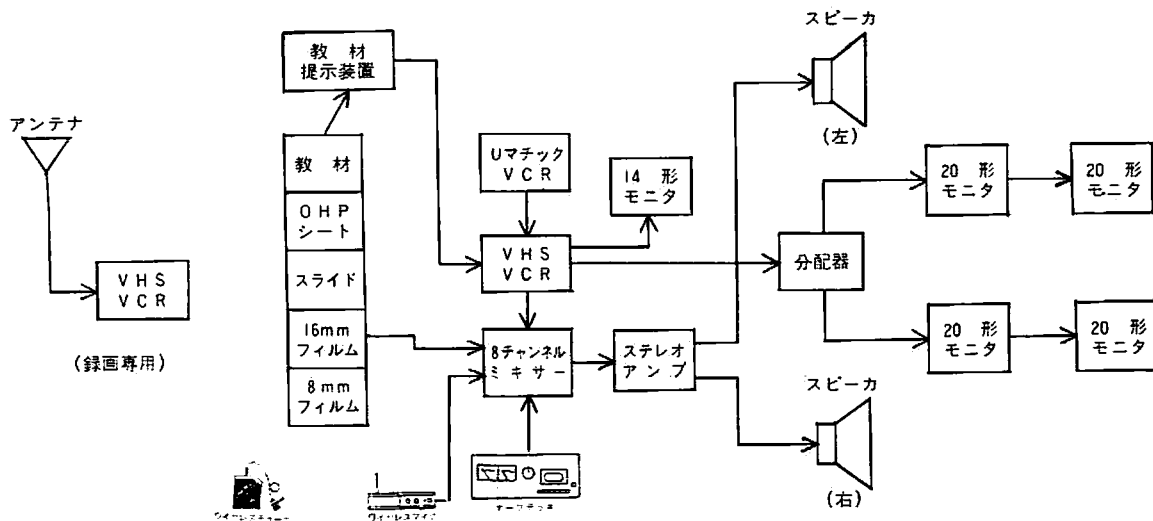


図1 視聴覚教室の機器

ます。これはカラー・ビデオ・カメラでフィルム、スライド、OHPや各種の教材を映像するものですが、前のイラストから分かるように水平提示および立体提示が可能ですから多様な使い方ができます。

なお、映写室にある16mmフィルム映写機、35mmスライド映写機などは従来通り教卓からリモートコントロールできます。

(2) 中ゼミナール室

図2のように、中ゼミナール室にはUマチックVCRとVHS・VCRが1台ずつと20形モニター1台を設置しています。放送受信アンテナが接続されており、放送番組の録画もできます。UマチックとVHSの使い分けは切替スイッチを操作して行ないます。

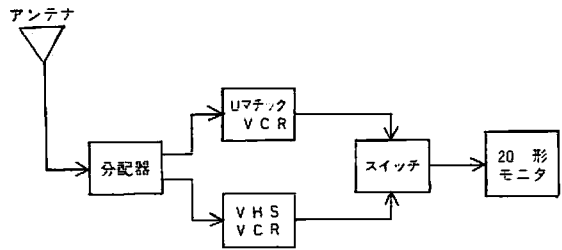


図2 中ゼミナール室の機器

(3) 閲覧室

図(図3)示のようにVHS・VCRが1台と受像機1台が設置してあります。これは特に学生諸君が図書館備え付けのビデオ・プログラムを視聴できるようにしたものです。(個人のカセットは使用できません。)

閲覧室内であるため音声はヘッドホンを使用します。現在は2人までしか利用できませんが、近い将来、さらに多くの人と同時に聴けるようにしたいと考えています。

利用希望者は図書借出窓口に申し込んで所定の手続きをとって下さい。

現在、表2にあげたようなカセットを準備して

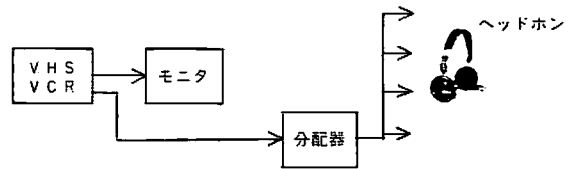


図3 閲覧室の機器 (再生専用)

おりますので大いに活用して下さい。又、今後ともさらにプログラム数を増やしてゆく予定であり、若干の生テープを用意しています。申し出により図書係で希望のプログラムを録画します。ただし教養番組に限ります。

なお、VCR、モニターなどを十分丁寧に取扱って下さい。

表2 借出し用カセット

- ☆ 日本の条件「技術大国の素顔③ - 破れるか模倣技術の壁 -」(50分)
- ☆ ドキュメンタリー特集 超高速撮影の魔術「肉眼で見えない世界」(50分)
- ☆ (1) 深海の謎「海洋の驚異」(25分)
- ☆ (2) 今日の健康「うつ病の予防」(20分)
- ☆ 皆既日食 1983.6.11 - 世界初多元衛星中継 - (35分)
- ☆ ロボットは人間に代われるか(45分)
- ☆ 実用化する光通信(45分)
- ☆ 地上の太陽は生まれるか(45分)
- ☆ 宇宙にとびだすテクノロジー(45分)
- ☆ シェクスピア劇場「終りよければすべてよし」(120分)
- ☆ ビデオソフト制作入門(25分)
- ☆ (1) 図形と音のメディアテクノロジー(45分)
- ☆ (2) あたたかい音を求めて(20分)
- ☆ (1) あなたの照明は間違っていないか(30分)
- ☆ (2) シルクロード「幻のインクル湖に潜る」(50分)

他

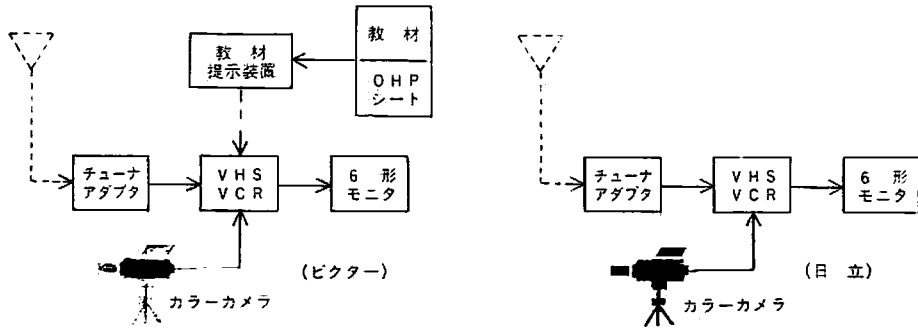


図4 ポータブルシステムの機器

(4) ポータブルビデオシステム

ポータブル・ビデオシステムは、カラー・ビデオカメラ、VCR本体、電源アダプター、バッテリー、チューナーアダプター、モニター、それに3脚などの付属品から成っております。ビクター社製と日立社製の2セットがあり、うち1セットは教材提示ビューア部との組合せができます。

ポータブルシステムは高専祭や体育大会などの記録に利用されています。交直両用ですが、電源にバッテリーを使用する場合は、バッテリーの寿命を縮めないようその取扱い、特に使用前後に十分充電するように留意する必要があります。

2. 録画について

次に運用面について述べます。

録画には(i)放送番組の録画と(ii)ビデオカメラによる録画とがあります。(i)については表3に示すように視聴覚教室、中ゼミナール室、およびポータブルシステムで行なうことができます。ただし、UマチックVCRは中ゼミナールでのみ録画できます。できるだけVHS・VCRを使用して下さい。VHS・VCRでは標準および3倍録画がありますので適宜使い分けています。又、VCRの機種により、ステレオ録音あるいは2ヶ国語録音(多重放送受信による)もできます。

次に(ii)のビデオカメラによる録画ですが、使用環境と機種による特徴とを考慮して使用すれば、一層良い画像が得られます。異なるメーカーのカメラとVCRの組合せには若干の制約(アダプター使用で使用可の組合せもある。)があります。

表3 録画の方法

	Uマチック	VHS
(1) 視聴覚教室	×	○
(2) 中ゼミナール室	○	○
(3) ポータブルシステム2式	×	○

○印 録画可
×印 録画不可

3. アセンブル編集について

例えばポータブルシステムで録画したのみでは一般に一つのプログラムとして観賞に耐えないのが普通です。タイトルや、補助的な説明を加えたりして見易く編集したいものです。そこで、効率よく編集できる「電子編集機」を設置したいと考えています。ただし「アセンブル編集」といふ、所謂、ツナギ編集(スーパーインポーズ、ディゾルブ、特殊効果などのないカット切替のみのもの)しかできないのですが、切替えるべき画面を選んでセットして動作させれば、電子的にスムーズな編集ができるものです。本件は本年度内に設置できる予定です。

4. おわりに

以上、視聴覚設備の現状の要点を説明しましたが、これらの機器のうちで学生諸君が直接に利用できるのは(3)の閲覧室のみです。その他の機器は学生諸君が直接に使用したり、借り出すことはできません。使用要項に従って、各教職員が借り出して利用しますが、諸君も先生方を補佐して、これらの機器に触れる機会があると思います。現在のオーディオ、ビデオ機器は、高度の、細密にしてしかも精密な技術の結晶ですから、いたずらに手を触れて損うことのないよう留意して下さい。

視聴覚設備、機器というとしし教室や各科にある映写機、テープレコーダーなどもあります。ここでは図書館所属のものについて紹介しました。



私の読書

1、2年生特集

「海と毒薬」

2M 新妻 誠 司

この小説は、ある男が砂漠のような辺鄙な西松原住宅地に引越して来て、間気胸療法（これは、肺に穴があいた時それを直すのに、胸の側面に畳針ほどの針を入れる。針にはゴムが付けてあって、そこを通る空気が胸に送られて、空洞を少しずつ潰す療法）を受けるのに行った勝呂医院の勝呂二郎にふとした疑問をいだくことから始まる。

これは、第二次世界大戦中、ある医大で生体解剖をした事件についてくわしく述べている。勝呂二郎は、その医大の医学生であった。

この頃の医大では、患者はオペ（手術）の実験材料でしかなかった。オペで死ぬ確率が99%であっても、これからのオペのデータとして行うのである。又、患者は、食事が十分に取れず、回ってくる医学生に薬をもらいそれを配給の蕎麦や大豆と引き代えにするか、空腹をしのぐため鎮咳剤を飲むのである。つまり、患者は医大の中で飼われているモルモットにしかすぎなかったのである。

この本の一部での会話だが、

「あの大部屋の患者に先に死なれてなあ。こちらは新しいオペで試してみたかったんだ。」

「餌物を取り逃した感じでしょ。」

これだけでも、この頃の医大がどんな状態であったか想像出来ると思う。今の医大ではどうであるかは不明であるが……。

ここでの生体解剖は、捕虜のアメリカ兵で行われた。この解剖と実験の過程は次の通りである。

1. 第1捕虜に対して血液に生理的食塩水を注入し、その死亡までの極限可能量を調査する。
2. 第2捕虜に対しては血管に空気を注入しその死亡までの気管支断端の限界を調査する。
3. 第3捕虜に対しては肺を切除し、その死亡までの気管支断端の限界を調査する。

第1捕虜にたいして行う実験は戦争医学にどうしても欠くべからざる要請だった。血液に代用される生理的食塩水は蒸留水100に対して食塩を0.85%混合したものである。この代用血液を輸血を必要とする患者にどの程度まで注入することが出来るか、これは人体を対象とした場合、まだ不明瞭なのである。大体2ℓは

大丈夫と言われているがそれ以上は分かっていない。

第2捕虜に対して行う実験は空気を血管に注入するものなのだが、兎の場合は5ccの空気を注入ただけで即死してしまう。しかし人体にたいしてはどうか。

第3捕虜に対する実験こそ肺の外科医がどうしても知りたい問題である。整形手術より実に望ましい肺の切除療法は東北大の関口博士や大阪帝大の小沢教授によって行われたことがあるが、問題の一つは気管支の端をどの程度まで切ってよいかと言うことである。

これが生体解剖のすべてである。

解剖し終わった後、捕虜の肝臓をアルコール漬けにしておくなど本当に悲惨なものである。しかし、勝呂二郎は、純情な青年であり、この解剖にも立ち合ったにもかかわらず、何もせずただ呆然とし、事の重大さにおのき今日にいたっているのである。だから裁判が終って数十年たった今でも、カーテンを閉めきり、人とも口をきかず、過去のつぐないをしているのである。

戦争さえなければこの事件も起こらずにすんだかもしれない。戦争が勝呂二郎の一生を変えてしまったのであろうか。

最後に付け加えておくが、この小説の登場人物は偽名だとしても、内容そのものは事実あったことである。

「奈々子」を読んで

2C 安藤 満里子

私は、ある作品を読んでから伊藤左千夫に興味を持ち始めたのが理由で、今年の夏休みは左千夫の作品を片っ端から読み始めた。その中で一番心打たれたのが「奈々子」という作品だった。短編ながら読者に大きな感動をあたえる作品だと思う。

父親とは、とかく娘を可愛いがる傾向がありがちだがこれを読んでいると奈々子を可愛いがる父親の様子がほのぼのと出ていて思わずほほえんでしまうというような感じだ。

自分の幼い頃の写真を思い出してみると、奈々子と同じように可愛いがられていたのだらうと思う。

私の父も奈々子の父も同じ気持ちだったのだらう。いつもは父親のことなどあまり気にもしない私だが、この奈々子を読んで急に父親がこいしくなるような気持にかられるような気がした。

十六にもなってこいしいなどといったらあまりにも大

人げないと感じるが、いつになってもやはり父親の子供なのである。父親からみた私もいつになっても子供は子供で可愛いのだろうと思う。

奈々子はこの父親の期待を裏切ってその幼い命を絶ってしまう。無邪気で可憐な三歳の幼女がたとえそれが運命だったにせよこの世から姿を消されてしまうなどなんて悲劇なのだろう。

誤って池に落ちた奈々子は、発見した時はもうすでに死んでいたのである。にもかかわらず何とかして助けようと頑張る両親の気持ちを思うと胸がしめつけられる感じがした。娘の死を信じたくないと思う両親があわれて涙が出るようだ。

真におむっているような顔の奈々子に線香をあげて死人あつかいするのはかわいそうと思うなど、どれほど奈々子を可愛いがっていたかがうかがわれる。自分を悔い自分を痛め、自分を損じ苦しめるのがいくらか自分をなぐさめるなど深い悲しみのふちに沈んだ父親の気持ちを考えると何とってよいやら言葉が出ない。幸せに満ちたりていた家庭に突然襲いかかった不測のわざわいとは、何とおそろしいものなのだろうと思う。人が亡くなった後のさびしさとは、こんなものなのだろうかと言葉に出来ない悲しさが強く胸に残った。

没落の挽歌「斜陽」に感動

2 C 馬 上 伊三雄

私は、この作品を読んでみて、その時代についてはあまり把握していないが戦中戦後にかけて、貴族たちが没落してゆく有様がとても哀しく書かれている様な気がした。正直言ってこの作品は、まだ17才の私にはちょっと大人びたものだった様に思えた。が、文体はとても読み易く、丁寧ないいまわしの様で、貴族達のプライドの高さがうかがえた。主人公は、29から30才にかけてのかず子で、男女4人を中心に描かれており貴族が一般社会に解放された時のはかなさが、自分自身の心に、ひしひしと感じられた。

かず子は母と東京の西片町に住んで、何の苦勞もなく父の残してくれた財産や和田の叔父さまが、色々世話してくれたもので、今迄通りプライドを保ちながら生活することが出来た。しかし何の収入源もなくのんきな暮しをしていたので、当然経済力も弱まって、二人は、伊豆の山荘に引越すことになった。伊豆での生活は今迄とは逆に畑仕事や軍からの徴用等で地下足袋を履いて、一般人と共に労働を必要とするヨイトマケをしなくてはならなくなった。そういう生活は、かず子にとっては、世間を知る上でかえってよかったのかもしれない。又、かず子の母は、日本における最後の貴婦人であると、かず子は言っているが、これは太宰治の憧れがつくりだした、この世ならぬ美しい幻想では

なかったかと思う。そのうちに、弟の直治が南方の島から還って来たが直治は麻薬中毒でその治療のために、薬屋から千円近くの借金をつくってしまったのである。戦中の千円であったから、こんな大金を直治は支払えるわけではなく母やかず子から借りた。母やかず子はそのお金をつくるために自分の所持品を売ってみつuroった。そして、ついには西片町の家を売るはめになってしまったのだ。

又、文の表現に非常に強く感じたのは、かず子の会話の中に、男である太宰治が、本当に女性が書いたとしか思えない程に巧みな表現をしている部分である。特に伊豆へ着いてからまわりの景色をこう言っている。「海が見える。海は、こうしてお座敷に坐っていると、ちょうど私のお乳のさきに水平線がさわるくらいに見えた。」この箇所には感心した。正に、文章表現の天才というよりはかはないと思った。戦中、直治の酒飲み友達である上原は流行を追う、金に鈍欲な画家であるが、つまり、それは太宰治自身の事なのである。かず子はこの上原に恋こがれていたが、恋の完全勝利者なのだろうか？このかず子がみごもった上原の子供というのは、つまり太宰治の一粒種として実存しているという話を母から聞いて、「斜陽」は太宰治の生涯を記したものではないかと強く感じた。

それにしても、作者の経歴をみると、上原つまり太宰治は弟の遺書から弟の秘めていた以前から好きだった上原の妻と別れて、他の愛人と、玉川上水に身を投じたと記されてあるが、現代の我々凡人から見れば、女性に対しあまりにも、スキャンダルというか、とても恋多き無責任な男にも見えた。それに対し、主人公のかず子は、恋してはならぬ妻子ある上原に、六年も前からずっと恋こがれ、二人の間に出来た愛する子供を育てる事が自分の道徳革命の完成だと言ったが、今迄の社会の殻を破って、新しい自分なりの生き方を見つけて歩いていくこと、これがすなわち作者の言いたかった道徳革命ではないかと思う。このかず子という女性は、昭和の激動期のけなげにも愛のある最も勇氣ある道徳革命者であったと思う。だから、その子供もきっと母親のこの勇氣ある革命に対しきっと今でも、それを誇りに思っているのではないかと考えられる。

又、作者は、今の世の中で一番美しいのは犠牲者ですと言っているが、この犠牲者こそが、本当に自分の信念を捨てずに勇者の如く社会と闘うからこそ、美しいのだと思う。そしてかず子は、人間は恋と革命のために生まれて来るのだと言ったが、それを押し通したかず子の生き方は、とても素敵ではないかと思った。

それにしても、人間と動物の最も大きな違いは、“秘めごと”だとかず子は言いましたが、恋多き太宰治は、きっと“秘めごと”の多かりし男性ではなかったのだろうか???

「脱出順位」

2 E 三 浦 武 治

「一日だけの殺し屋」

そいつがその本の題名だ。赤川次郎の短編小説を集めたものである。もう1ヶ月も前に読んだ本だから細かいところまでは覚えちゃいない。でも、その中でも比較的印象深い、ほんの少しためになる小説を紹介しよう。

「脱出順位」

これは、高層ビルの火災という極限状況における人間の行為と選択を描いたパニックサスペンスである。

主人公は、ごく平凡などこにでも居そうなサラリーマン。話は、K産業株式会社のパーティが行なわれている高層ビルが、火災に合ってしまうところから始まる。火事の実験のある主人公が、リーダーとなって、この惨事を切り抜けていくわけだが、この時、彼の行動にこれから社会へ出て行く自分にとって、かなり大きな問題が投げかけられている。

それは、人間の醜い心の争いが錯乱する中、いかに人を思いやり、そして自身に課された使命を果たし切れるかということである。パニック状態に陥ったとき自分を前面に押し立てて、自分だけ助かろうとするのが本来の人間の姿だろう。しかし、そこを押え他人をどう思いやられるかによって人間としての真価が問われるのである。たとえそうして助かったとしても、それは自分に背負いきれない後悔を残すことになるのである。

これは、パニック小説ではあるが、同時に心理ミステリーであるともいえる。

メインストーリーは、このように高層ビルの火災であるが、実はもう一つ、隠れた重大な心理的ミステリーが絡んでいる。主人公は以前、火事の実験をしているがその時妻を亡しているのだ。

今、あなたは火事の現場に居るとする。火の中には妻と子が倒れている。あなたはどちらか一人しか助けられない。あなたはどちらを助ける。

今すぐ答えろと言われても、自分には返答はできない。主人公は咄嗟に子供を助けた。はたして自分も子供を助けるだろうか。

「山椒魚」を読んで

1 M 久保喜 正 喜

この物語は一匹の山椒魚が棲家である岩屋から出られなくなってしまう場面から始まります。自分の頭が出入口につかえて出られなくなってしまうのはたいへんこっけいだと思いますが、もしこれが人間いや自分だったらどんな風になるでしょう。体を前後左右に少ししか動かせない暗い岩屋です。例えどんな人間ぎらいの人でも人間が恋しくなるように、山椒魚も外界に

あこがれました。しかし彼はすぐ気づいたのです。いくら自分が外界に興味を持って自分もここを離れることはできないのです。その上、自分がいやというほど独りぼっちだということも思いしらされたのです。この時人間だったら何をしようか。自殺をするか自分のカラの中に閉じこもったきりになるでしょう。

そして彼は或る日岩屋にまぎれこんだ一匹の蛙を閉じこめました。自分と同じ目に合わせようとする心からでしょうか、それとも、一人でいるのがいやになったのでしょうか。私はその両方であると思います。しかしのちに山椒魚はこの蛙が自分と同じ気持ちになった時すなわち外界へのあこがれの気持ちをもった時彼は蛙に友情をもって話しかけたのでした。

この作品は、山椒魚と言う一匹の動物を人間のかわりにみたてているのです。この小説を読んでみればしばしば人と山椒魚を重ね合わされているのがはっきりします。特に囚人ばかりを出しているのなどそうです。岩屋に閉じこめられた山椒魚と牢屋に入れられた囚人と共通点がありはしないでしょうか。

この「山椒魚」の中では岩屋に閉じこめられた山椒魚の様子やその周りの様子が細かな所まで書かれていますが、これは山椒魚を題材に選んだ作者の注意深い観察の結果であると思われます。

この山椒魚という物語は、これをそっくり人間に置きかえても、まったくいせいする所がないのではないかと思われました。

読み易い本「太郎物語」

2 土 林 聡 宏

最近本を読むのに抵抗を感じていた僕が、これほど読みやすい本もないと思うほどすらと読めた。と言うのも高校編という僕たちと同世代の青春時代をエンジョイしている主人公の物語だったからだと思う。それと、今の自分の立場と比較し、どこがどうちがうかなど考えながら読んでいたからだろう。僕たち高専生が高校時代と言うのはおかしいかもしれないが、高校時代というものは、青春というものを最も意識し、また、まっ盛の時期でもあると思う。それだけに、進学、進路問題、交友関係、恋愛、失恋などさまざまな問題や事件が渦巻いている。しかしそこをどう生きていくのか、この本によって考えさせられたような気がする。

この物語の主人公は、山本太郎という少年であり、いかにも日本の平均的的な名前であるが、その名前どおりの普通の人間である。それだけに今の僕たちにはない何かを持っているような気がする。また、この山本太郎をとりまく父や母、友人などどこにでもいるような普通の人間たちであるが特に、山本太郎の父、山本正二郎と言うのだが、この人がすばらしい人だなと感じた。親子の会話だけを見ると和気あいあいと、父と

子の隔りをなくして話しているようで、何かやさしさがにじみでて来るような気がした。

しかし、その反面我が子の許さざる行為を見ると、人がかわったように厳しくなるのである。例えば太郎の少年時代のことではあるが、太郎が、テレビなしで生きられないなどと言ったとたん、父がいきなりテレビを持ちあげ、庭石にたたきつけて壊し、「テレビなしで生きられないなら死んでみろ。」と、太郎にどなりつけた。当時少年だった太郎にとってみれば、父親が厳しくまた大きく見えたことだろう。このように、普段はやさしく、場合によっては厳しく、父親の本来の姿が見いだせたような気がする。山本太郎が、こんなすばらしい父や、その他大勢の人に見守られながら、青春時代を生きて行くことが、ちょっぴりうらやましい感じがした。

青春時代が輝いたものなのだろうなどと言うのはその人が既に青春を終わった証拠ではないだろうか。と書いてあった。青春というものは突発的に起こるのではなく、なにげなく始まり、なにげなく終るものにちがいない。だから、今から何年後かに自分の過去が脳裏をよぎるとき、それが輝いて見える時終わりを告げるのだろう。たとえ今の自分が苦しく、苦悩の毎日でも後になってみればよい思い出になるのだろう。良い思い出をつくるために特別な事をしなくてもよいと思う。今、普通に生きることが後で青春時代を輝いたものにするだろうと思う。

「いつか猫になる日まで」

1C 水野久美子

私が主に読む本は、SF小説か推理小説である。

私がこの本を読んだのも、いちおうSF小説という肩書きをもつ本だったからである。

でも、私がこの本を読もうと思ったのは、SF小説という肩書きをもっていたからだけではない。題名の中に「猫」という言葉が入っていたからである。私は猫が好きである。否、ただ好きだけでなく、強い愛情を抱いている。私は、もしかすると、前世では猫として生きていたのではないか………と想ったりしたこともある。だから、題名の中に「猫」という文字を見た私は、この本をどうしても読まなければいけないのだ………と、思ってしまったのである。

しかし、この本の内容は、直接猫に関係ある話ではなかった。なんだつまらん………と、思いつつ読んでいたのである。

この本の内容は………といえば、私は猫のように、好きな時に縁側で日なたぼっこのできる、無意味で気ままな生活にあこがれるが、本当にそのような生活に入りこむことはできない、というようなものである。

どこが、SFなんだと思う人もいるかもしれませんが、話の中には、いちおう宇宙人もUFOも出てくる

のである。でも結論から言えば私には、どうもこの話はSF小説という気がしなかったのである。どちらかといえば現代の御伽噺という感じであった。

でも、もしかするとSF小説というのは、御伽噺なのかもしれない。竹取物語だって、SF的要素が含まれているということができると思う。

まあ結局は、この本は私にとって単なるヒマつぶし………だけではなかったと信じている。

得られたものは何だか、分からないけれど……

(FIN)

「グスコブドリ」の 伝記を読んで

2M 鈴木孝之

「グスコブドリの伝記」、この本は作者宮沢賢治自身の自伝であるとも言える本です。宮沢賢治という人は、僕の好きな作家のうちの一人です。何故好きなのかと聞かれると返答に困りますが、賢治がとても立派な行為をしてきたことは事実であり尊敬されてもおかしくない人物であるということも確かです。賢治の男らしい優しさでもいうのでしょうか、日の当たらぬ場所でも黙々と努力を惜しまない不屈の精神は、詩人としての、時には作家としての彼の魅力を幻想的に描き出します。その世界は、読者を魅了し心を和ませることでしょう。

賢治は岩手県出身です。岩手という所は昔から寒冷の地でありました。そのため土地も痩せていて岩手の農民は苦しい生活を強いられていたそうです。無論、賢治はそのような農村の現状を知っていました。それで一時的ではありましたが学校の先生になりました。貧しい農村に精神面にも技術面にも、明るい希望の光を投げようとしたのです。そして農民たちと共に苦しさを体験しながら目標達成のため努力したのでした。

僕が読んだ「グスコブドリの伝記」にも岩手の農村と同じような農村が出てきます。主人公の名はブドリ。ブドリには妹がいましたが誘拐されてしまったり苦勞の連続なのです。その後ブドリは火山局に勤めるようになるのですが、この時期はブドリにとってとても有意義な楽しい時期なのでしょう、とても精力的に活動します。それは肥料を空から降らせたり火山を爆発させて気温を上昇させ冷害から農作物を守ろうとしたりするものでした。それは科学の発達した現代でも出来ない奇抜な方法ですが、ブドリはそれを為し遂げてしまいます。又、物語の中にたくさんの専門的な知識が取り入れられており賢治の研究熱心がよくわかります。

ところで、火山を爆発させて気温を上げるという計画には一人の犠牲者が必要だったのです。献身的なブドリはその一人に自ら立候補したのでした。

数日後、冷害に悩む貧しい農村の農民たちは青空が

緑色に濁り太陽や月が銅（あかがね）色になった光景を見ました。そして3、4日たってみると気温がぐんぐん上がり死んだようになっていた野菜が生き返ったように青々となって、冷害を防ぐことができたのでした。ブドリは人知れず自分の命を投げ出して農民の生活を救ったのでした。

ここで僕はブドリと賢治がだぶって見えました。このような観点から「グスコブドリの伝記」が宮沢賢治本人の自伝であると言われるのでしょうか。本人の賢治もブドリ同様、作家として有名になるまえに農民のために命を投げうって死んでいったのでした。

忌ましい戦争の傷跡 「悪魔の飽食」

2土 鈴木基彦

いまでは、一昔前の本となってしまう本であるがこの本で著者である森村誠一氏は次のように物語を冷静にかつ激烈に語っていました。

話は中国より始まります。日本は第二次世界大戦中、苦しい戦争へと移ったため、最後の手段として「細菌爆弾」を選びました。その結果、我が国はこれを作るため、関東軍防疫給水本部満州第731部隊、いわゆる731部隊を配属させたわけです。戦争で日本が勝つためとはいえ731部隊の取る行動は見るも残酷な行為でした。中国人捕虜、又なにも関係のない庶民（ロシア人、白人、中国人etc）を生体解剖の実験材料とし、殺しました。私には、実験をしている人々が悪魔の使い手の様にかんじられました。彼らは実験材料である人々を“マルダ”と呼び“本数”で数え、殺すことを“消費”と言いました。彼らから見れば、人々は“丸太”そのものだったのかもしれない。今の私達にはとうてい考えられないことです。

殺害の方法には青酸法がありました。その実験を一部始終見ていた元731部隊の隊員は情景を回想し涙を流す。という事が書いてありました。私はこのときなぜ37年目にして流す涙を37年前のその日に流すことができなかったのだろうか。私にはくやしくてしょうがありませんでした。その涙は殺された人々に届きはしないのです。あの時に彼らの中に1人くらいは体を張ってでも止めることができる人がいなかったのか、戦争とは人の心をここまで変わらせるのかとしみじみ考えさせられました。

戦争というものの恐ろしさ、それははかりしれないものであって、これから私達が望み、いつまでも残しておかなければならないもの、それは平和であると感じました。一部の政党幹部の間ですら軍備拡張、大量虐殺の核兵器容認が声高に叫ばれはじめた今、かつて日本が産み出した世界最大の細菌戦部隊の終戦による瓦解、731部隊のたどった軌跡は、そのまま37年前に日本民族全体がたどった狂気の軌跡でもあり、現

在の危険でもあるわけです。われわれは何のために軍備拡張に執拗に反対しているのか。それは太平洋戦争の犠牲によってかち取られた平和を無にしたくないからです。平和と民主主義を失うのはたやすく、再びそれを得るためには無数の犠牲を積み重ね、長い暗黒に耐えなければなりません。

二度と戦争が起これ、731のような部隊が生まれて再び蛮行、愚行を繰り返すことがあってはならないのです。貴方も、もう一度このことを、考えて見て下さい。

「野菊の墓」を読んで

1E 鈴木宏佳

この物語を、私は何回か読んだが、何回読んで、泣けてくる。一番初めに読んだときは、ゾクゾクッときて涙がこぼれてしまった。今までに、数多くの本を読んだつもりだが、涙をこぼしてしまったのは、これが初めてだったと思う。それに刺激されたか映画もきちんとみだし、中学で感想文も書いた。しかし、ここで改めて感想文を書き、もう一度振り返ってみたいと思う。

この物語は回想から始まり、回想におわる。時代は新しくもなく、そうかといって古くもない。そして、政夫と民子という二人の不幸な愛というべきか、恋というべきか、そんな二人の行動、思い、周囲の人々の反応などが書かれている。

この物語をよんで私は思った。恋とか愛などは、むずかしい。勉強などよりもむずかしいと思った。この二人も、初めは仲の良い友達であった。しかし、子供から大人へ成長するにつれて、いつしか友情は、愛情に変わってしまう。そうなる顔もろくに見られなくなってしまう。同年代の私にも、とても良く分かる。かえってさけたり、心にもないことを言ってしまう。政夫もそうであった。民子を見ているととても恥かしくなり、出てくるのはいや味な言葉ばかりであった。だが、民子と話しているだけで、きっと楽しかったにちがいない。民子にしてみてもそうであったろう。しかし、そんな二人を家族や周りの人々は、良くは見なかった。なぜだろう？なぜ二人を見守ってやらないのだろう。お互いがお互いに恋をする。これこそが大事なことなのだ。そう私は思った。そして、二人はいっしょに綿取りに行った。政夫も民子もとてもうれしかっただろう。

読みながら私は、できれば私と変わってほしいとも思った。だって、女の子と二人で仕事ができるなんてすばらしいことにちがいない。そう思いませんか？思わないのなら、とても残念です。しかし大人はいやです。帰りのおそくなった二人を、白い目でみるのだから。私だったら二人を信用しただろう。大人になると考え方や、物事のみかたなども、かわってしまう

のだろうか。私たちも、大人になると同じことをするのだろうか。そんなことを、今は考える必要はないのかもしれない。いずれ私にも、悩むときがくることだろうが、とにかくその時までには必要ないのだ。

そんなわけで、政夫と民子は離されてしまった。政夫は中学校に、そして民子は、むりやり結婚させられてしまったのだ。民子の結婚は、政夫には知らせずに事はこぼれたのだった。そして、政夫にとどいた電報は「スグカエレ」だった。帰ってみると、周りの雰囲気がおかしい。きけば民子が死んだと言う。胸に野菊と政夫の書いた手紙をもって……。私はジーンときた。思わず涙をこぼしてしまった。こんなにも愛された政夫がうらやましいと思う。私も一生のうちで、こんな恋をしてみたい。この「野菊の墓」を、私はきくと忘れないであろう。そして不幸な恋と、偏見をもった大人たちのことも……。

「そして誰もいなくなった」

2 E 相 田 亨

この小説で魅力的な部分は、U=N=オーエンと名乗る謎の人物に招待された十人の客が、一人一人殺されていく場面である。

招待客はそれぞれ、法では裁けない罪があった。招待されて間もなく、食卓でそれを告発された彼らには、少しずつつひびが入っていく。人間とはそっけないものだった。初めの犠牲者が出てからは、互いの信頼というものが消えさってしまったからだ。残された者は招待主の犯行として彼を探すが、招待された海の孤島には招待客以外にはだれもいなかった。しかもいっさいの交通、通信手段を閉ざされての話である。

そして招待客は一人一人殺されていく。皆がお互いを犯人だと思いながらも、それを確信できない歯がゆさと、自己本位にしか物事を考えられなくなった人間が異様なぶきみさを感じさせた。また、死を前提にして、人間性とは成り立たないものなのだろうか。現実はいこうあってはしくないものである。

最後に、この孤島には男と女が残ることになる。しかし、兩人とも犯人ではない。信じ合うことを忘れ去った彼らは、殺し合い、男は死んだ。女は、恐怖と絶望で精神が錯乱し、首をつって死んでしまう。ここで人間の心理の盲点をついた犯罪は終る。実は、犯人は接待客の中の判事なのだが、彼は6人目の犠牲者と見せかけて犯行を遂行し、自殺してしまう。孤島にはほんとうにだれもいなくなるのである。この時、人間のむなしさや、やり切れなさというものをひしひしと感じた。恐怖というものは人間をいがみ合わせ、ついには殺し合いを起こさせてしまうのだ。

また、招待客の部屋に飾ってあるマザーグースの歌が事件の重要な要素だったと思う。

犯人であった判事の気持ちもわからないではない。この職業から来る異様なほどの正義感が動機であるに違いないだろう。何かの本で読んだことがあるが、この手の職業は長くつづけると、その人に重い負担がかり、心身によくはないということだ。

この小説の完璧さには、ある種の美しささえ感じられた。歌に忠実な犯行が進んでいる恐怖感も、それにも増して印象的だった。

小説を読み終って感じたことだが、ミステリーというものは、その切迫したスリル、こみいった事実の中からしだいに頭角を表していく真実にそのおもしろさがあると思う。

「ビブリア」原稿募集

- ◇ 「ビブリア」への投稿を歓迎します。
- ◇ 読書感想文・読書に関する随想・提言等、その他何でも結構です。奮って投稿して下さい。
- ◇ 投稿原稿は、各クラスの図書委員又は図書館図書係まで随時ご持参下さい。

新着図書目録

※印は図書館、他は各教官の研究室に所在するものを分類別受人順に記載

総 記

朝日新聞縮刷版 昭和58年2月～7月号
朝日新聞社※
福島民報縮刷版 昭和58年2月～7月号
福島民報社※
1983 世界の研究要覧 にかん書房
日本の図書館 1982 日本図書館協会※

大事典 desk 講談社
1983年版読書世論調査 毎日新聞社
福島県人物風土記 暁教育図書
片岡純治 ぎょうせい
広報編集事典 小学出版
飯倉広州他 学事出版
梅原猛著作集 集英社※
1 蘭のバトス 同 ※
18 精神の発見
東洋文庫 平凡社※
420 偉堂日書 6 同 ※
421 甲子夜話三編 4 同 ※
422 東洋の理想、他 同 ※
423 甲子夜話三編 5 同 ※
424 新徳義記 同 ※
人類の知的遺産 講談社※
33 黄宗羲

47 グーフィン 講談社※
59 ベルクソン 同 ※
70 ケインズ 同 ※
日本の名著
20 三浦梅園 中央公論社※
45 宮崎滔天 北一輝 同 ※
George Lozanov
Suggestology and Outlines of Suggestology Gordon and Breach

哲 学

イスラーム神典 東京堂出版※
イスラーム事典 平凡社※
誕生俱楽全書18 みすず書房
L. スティーヴンソン
人間本性にかんする七つの理論 未来社

R. L. クラッキー
 記憶のしくみ1.1 サイエンス社

岸本英夫編
 世界の宗教 大明堂

山根三千雄
 神祕家と神祕思想 創文社

内村鑑三
 29 1925-1926 岩波書店
 31 1928 同
 32 1929-1930 同
 33 日記一 同
 34 同二 同

講座現代の心理学
 3 学習と環境 小学館

朱子学大系
 5 朱子文集(下) 明德出版

ハイデッガー選集
 30 ヘルダーリン論 理想社

岩波クラシックス
 35 正法眼蔵闡明記 岩波書店
 36 眠られぬ夜のために 第一部 同
 37 同 第二部 同
 39 旧約聖書 ヨブ記 同
 儒教集 前篇 後篇 新教出版

歴史

日本庶民生活史料集成26 三一書房
 鎌波敬居村 北日本新聞社
 朝鮮の歴史 三省堂
 都市の地方史 生活の文化 雄山閣
 異常の歴史 福島民友新聞社

山本正三
 世界の自然環境 大明堂

多田文男
 自然環境の要観 東京大学出版会
 渡辺光 世界総論 世界地理1 朝倉書店
 安東伸介 イギリスの生活と文化事典 研究社

長澤和俊
 シルクロード文化史1 白水社

島田政雄
 チベット その歴史と現代 三省堂

網野善彦
 東と西の語る日本の歴史 そしえて

田辺健一
 実験都市「仙台」 大明堂

J. マイヤ
 社会地理学 今古書院

浅香鶴輔
 歴史がつくった景観 同

石田寛 地域研究のすすめ 続牛歩選選 同
 斎藤光格 社会地理学試験 同

水津一朗
 地域の構造 大明堂

堀口友一
 国際文化地域論 晩印舎

谷川健一他
 日本の地名 歴史風土の遺産 講談社

森浩一編
 古代日本海文化 小学館

C. M. Matthews
 ハムソン英人名小事典 秀文インターナショナル

稲垣史生

歴史考証事典1~3
 長沢和俊 シルクロード文化史2・3 白水社
 弓削達 ローマ帝国論 吉川弘文館
 太田秀通 ギリシア世界の黎明 同
 川島清吉 トルコ・ギリシアの古代文明 同
 豊田重他 地理のとびら1・2 日本書館
 吉村徳蔵 歴史のとびら 同
 山本太郎 騎馬の道 集英社
 日本古代文化の探究
 古事記 社会思想社
 鉄 同
 空白の古代史 同
 古代文化の謎をめぐって 同
 考古学ノート 同

日本史小百科
 13 国土 近畿出版社
 角川日本地名大辞典
 24 三重県 角川書店

日本歴史地名大系
 24 三重県の地名 平凡社

世界現代史5 東南アジア現代史1 山川出版社
 6 同2 同
 7 同3 同
 9 南アジア現代史1 同
 10 同2 同
 11 同 中東現代史 同

世界各国史12 北アジア史 同

社会科学

文部省科学研究費補助金採択課題一覧 昭和58年度 ぎょうせい
 六法全書 昭和58年版1・2 有斐閣
 瓦解するアメリカ 開発問題研究所

菅野誠他
 日本の学校建築 文教ニュース社

チューチマン
 オペレーションズ・リサーチ入門 上・下 紀伊国屋書店

鹿野政直
 戦前家の思想 創文社

南 博 日本人の生活文化事典 勁草書房

杉本尚次
 西サモアと日本人酋長 古今書院

林勝一 異文化交際法 筑摩書房

坪井洋文
 福を選んだ日本人 未来社

祖父江孝男
 文化人類学事典 ぎょうせい

大林太良編
 文化摩擦の一般理論 旺文堂書店

新井進 パーソナルコンピュータビジネスグラフ 活用 活用法 アスキー出版

依田啓 技術者のOR入門 朝倉書店

佐藤昌盛
 ソ連東欧82~83 vol.2 原書房

日本民俗文化大系
 2 太陽と月 小学館
 3 稲と鉄 同

岩波クラシックス

34 孫子 岩波書店
 38 日本民謡集 同

日本人の生活と文化
 1 町のくらしとなりたち ぎょうせい
 2 村のくらしとなりたち 同
 3 海のくらしとなりたち 同
 4 暮らしの中の焼きもの 同
 5 暮らしの中の木器 同
 6 暮らしの中の竹とわら 同
 7 暮らしの中の鉄と銅のもの 同
 8 織と染めもの 同
 9 食べものの習俗 同
 10 住まいと町並み 同
 11 祈願のかたち 同
 12 神々との遊び 同

日本の民話
 1 津軽 若手篇 未来社
 2 秋田 出羽篇 同
 3 福島篇 同
 4 宮城 みちのく篇 同
 5 栃木篇 同
 6 房総 神奈川篇 同
 7 遠江 駿河 伊豆篇 同
 8 上州篇 甲斐篇 同
 9 美濃篇 飛騨篇 同
 10 信濃篇 越中篇 同
 11 越後篇 佐渡篇 同
 12 加賀 能登篇 香狭 越前篇 同
 13 京都 伊勢 志摩篇 同
 14 大阪篇 兵庫篇 同
 15 岡山 出雲篇 同
 16 安芸 備後篇 同
 17 周防 長門篇 同
 18 讃岐 伊予篇 同
 19 阿波篇 同
 20 福岡 大分篇 同
 21 長崎 天草篇 同
 22 肥後篇 薩摩 大隅篇 同
 23 日向篇 同
 24 種子島篇 同
 25 鹿児島篇 同
 26 沖縄篇 八丈島篇 同

もっと知りたい東南アジア
 1 タイ 弘文堂
 2 インドネシア 同
 3 シンガポール 同
 4 マレーシア 同
 5 フィリピン 同
 6 ビルマ 同

Acceleration Learning: The Use of Suggestion in the Classroom.
 Prndard Taylor

自然科学

雨量年表 第29回 昭和56年 日本河川協会

運動療法 朝倉書店
 物理学ハンドブック 同
 生物の物理 丸善
 地震の力学 鹿島出版会
 科学技術25万種大辞典和英 インタープレス
 同 英和 同
 化学文献の調べ方 化学同人
 地学辞典 平凡社

日本化石集 1~58 総目次 総索引
 菊地書館
 科学技術史事典 弘文堂
 河口武夫 半導体の化学 同
 井上真由美 微生物災害と防止技術 工学図書
 大村平 評価と数量化のはなし 日付技速
 梶見悦治 都市の自然災害 今古書院
 原田雲編 左と右の世界 朝倉書店
 小島紀男 パソコン BASIC 数値計算 東海大学出版会
 大川章哉 結晶成長 裳華房
 沖野遙 理工学者のための生体計測入門 コロナ社
 植村泰忠他 半導体の理論と応用 上 裳華房
 大越孝敬 ホログラフィ 電気通信学会
 庄野克房 半導体技術 上・下 東京大学出版会
 川久保達之 物性論 朝倉書店
 吉川敏則 PC-801 実用数値計算プログラム集 昭晃堂
 河野照哉 数値電界計算法 コロナ社
 竹本昌一 機能性高分子 朝倉書店
 宮沢清治 防災と気象 同
 本城市次郎 生物物理学 裳華房
 市村昭二 光生物学のための光学的測定 共立出版
 J. ハイルホル 数値計算プログラム BASIC マグロウヒル
 L. プール 基礎数値計算 BASIC 同
 小野博宣 コンピューター図学 コロナ社
 柿沢寛他 有機機分析演習 裳華房
 萩原茂男他 物理を勉強しなめす本 講談社
 石戸忠 実践的園芸植物検索小図鑑 3 夏 同
 R. M. スターン バイオフィードバックとは何か 紀伊国屋書店
 A. J. Dekker 電気物性論入門 丸善
 中野圭一 マイコンが解く天体の謎 誠文堂新光社
 上田誠世 生きている地球 岩波書店
 日塚英平 空からみる日本の地形 同
 H. J. E. Loewenthal 有機化学実験法 指針と助言 東京化学同人
 稲本直樹 ハメット則 構造と反応性 丸善

井上尚人 基礎実験有機化学 丸善
 水山高幸 空からみた自然景観 大明堂
 和田研 マクロな系と統計法則 産業図書
 砂原善文編 確率システム理論 1 基礎編 2 発展編 3 応用編 朝倉書店
 原現吉 科学研究費 科学新聞社
 岩波クラシックス 28 化学事始 岩波書店
 講座現代の心理学 3 学習の環境 小学館
 数値解析とその周辺 26 工学における非線形偏微分方程式 産業図書
 現代の数値科学シリーズ 1 計算物理 1 地人書館
 2 同 2 同
 ブルーバックス 530 実践的園芸植物検索小図鑑 講談社
 531 数学迷宮集 同
 533 相対論の再発見 同
 534 森の動物学 同
 538 宇宙の起源 同
 540 身近な科学のゼミナール 同
 541 星座早見検索小図鑑 秋冬 同
 542 これからの宇宙論 同
 生物物理学講座 1 遠征情報 1 吉岡書店
 3 同 3 同
 4 生体高分子 1 同
 5 同 2 同
 6 生体機能の分子論 同
 8 量子生物学 2 同
 脱生物物理学講座 1 物理的測定法 1 同
 4 生物学的技術 1 同
 6 核酸蛋白質研究法 1 同
 7 同 2 同
 11 細胞生物物理研究法 2 同
 Advances in Biophysics vol. 1~16 1970~1983 University Park Press.
 Kastur: L. Chopra Thin Film Phenomena.
 N. W. Lepp Effect of Heavy Metal Pollution on Plants. Applied Science Publishers
 工学技術 流量年表 第34回 昭和56年 日本河川協会
 日本音響学会昭和56年度春季研究発表会講演論文集 1・2 日本音響学会
 日本機械学会講演文集第60期 No.830 1~6 日本機械学会
 昭和56年電気学会全国大会講演論文集 電気学会
 昭和56年度電子通信学会総合全国大会講演論文集 電子通信学会
 複合構造解析システム説明書 日本電気
 電力ケーブル技術ハンドブック 電気書院
 最新 IC トランジスタ回路アイデア集 誠文堂新光社

I C 応用ハンドブック 昭晃堂
 リレーの応用技術 誠文堂新光社
 電気材料 東京電機大学出版局
 JIS ハンドブック 製図 1983 日本規格協会
 昭和58年版情報処理技術者試験問題集 通産資料調査会
 高電圧試験ハンドブック 電気学会
 レーザーの基礎と応用 昭晃堂
 電子部品ハンドブック 地人書館
 電気材料 電気学会
 基礎電気工学 松下電機産業
 MOS 集積回路 近代科学社
 集積回路応用ハンドブック 朝倉書店
 フリットステート回路ハンドブック 丸善
 だれにも作れる SCR ホビーマニュアル オーム社
 超 LSI 技術 3 半導体プロセス 工業調査会
 LSI 技術 電子通信学会
 新版エレクトロニクス用語辞典 オーム社
 パソコン入門心得帖 同
 明日の都市 6 都市とゴミ廃棄物 中央法規
 第32期学術講演会 前刷 日本材料学会
 改訂図説廃棄物処分基準 中央法規出版
 廃棄物六法 同
 図形科学ハンドブック 森北出版
 近代土木技術の黎明期 土木学会
 MC 6809 - MC 6809 E マイクロプロセッサプログラミングマニュアル CQ出版
 標準工事歩量要覧 経済調査会
 未来産業技術 産業技術会議
 第2回破壊力学シンポジウム 日本材料学会
 1982年度第18回水工学に関する夏季研究会 土木学会
 騒音関係主任管理者公害防止管理者等国家試験問題正解とヒント 第4回~第6回 産業公害防止協会
 騒音振動関係公害防止管理者等国家試験問題正解とヒント 第7回~第9回 同
 道路構造令の解説と運用 日本道路協会
 第18回衛生工学研究討論会講演論文集 土木学会
 測量計算範例集 日本測量協会
 測量関係法令集 同
 測量士測量士補国家試験科目別模範解答集 昭和52年~57年 同
 やさしいセンサ技術 工業調査会
 PC-8001 マシン語活用ハンドブック 初級編 中級編 秀和システムレーディング
 ばね 丸善
 権1981-1982 土木学会
 測量用語解説 日本測量協会
 高分子材料の試験法の評価 培風館
 ポリマーアロイ基礎と応用 東京化学同人
 工業材料 臨時増刊 vol.130 No.12 日刊工業新聞社
 JIS ハンドブック 金属表面処理 1983 日本規格協会
 最新土木工法事典 産業調査会
 工場自動化事典 同
 日本のロボット 通産企画調査会
 産業用ロボット技術ハンドブック 新産業技術センター

日本機械学会講演文集No.830 9~14 日本機械学会 工業英語へのアプローチ 日本工業英語協会 最新建設防災ハンドブック 建設産業調査会 21世紀の国づくり国土建設と環境保全 建設工業調査会 鋼構造架設施工指針 土木学会 材料の疲労に関する研究の趨勢 1980 1981 日本材料学会 実用電子回路ハンドブック1~4 CQ出版社 マイクロコンピュータの基礎と6800 日本モーターローラ	佐々木昭夫 液晶エレクトロニクス基礎と応用 オーム社 平田礼一 電子通信公式活用ポケットブック 同 北川一雄 リレー回路実験と工作マニュアル 同 垂井康夫 超LSI技術 同 服部毅吉 トランジスタ回路1・2 同 曾根悟 サイリスタ回路の見方・考え方 同 加川幸雄 電気電子のための有限要素法入門 同 雨宮村文 電子回路を学ぶ人のために 同 黒部直一 大学課程電子回路2 同 片岡啓介 初歩者のためのICの使い方 同 垂井康夫 MOS電界効果トランジスタの応用 日刊工業新聞社	量子電子工学 森北出版 山本外史 電子回路2 朝倉書店 柳井久義 集積回路工学1・2 コロナ社 尾田十八 工学のためのコンピュータプログラミング 実教出版 池谷浩 砂防入門 山海堂 矢野義男 山地防災工学 同 谷村喜代司 水資源の開発 同 野口陽一 砂防工学 朝倉書店 S. F. ホルグ デンソルと連続体力学入門 プレイン図書 M. A. ジェスワオン 境界要素法 同 一宮亮一 公署防止管理者講習工学 朝倉書店 中東実明 マイコンによるデータ整理 培風館 山本博 改訂高周波測定 コロナ社 堀見弘 実践信頼性100問 日科技連 同 信頼性の基礎 コロナ社 市田薫 改訂保全性工学入門 日科技連 牧野鉄治 理工系学生技術者のための信頼性工学 同 佐藤春代蔵 おはなし信頼性 日本規格協会 広松恒彦 第1種情報処理技術者試験重点整理と徹底演習 通産資料調査会 住友栄吉 マイコンによる土木実用プログラム入門 近代図書 渡辺茂 システム工学とは何か 日本放送出版協会 一木允 電子部品活用マニュアル ラジオ技術社 佐方利通 電子工学通論 東海大学出版会 西村信雄 改訂電子工学 コロナ社 守田栄之 電子計測概論 パワー社 阿部節次 演習電子工学1・2 啓学出版 城阪俊吉 エレクトロニクス材料 電気書院 山崎弘郎 電子回路技術 東京大学出版会 石塚泰雄他 わかる電子回路 日新出版 小郷寛 電子回路 実教出版 吉田裕一 電子回路 電気学会 矢部初男 簡明電子回路入門 碩書館 米山正雄 電子回路1 コロナ社 北浜安夫 電子回路2 同 川上正光 電子回路1~5 共立出版 柳沢健 トランジスタ集積回路演習 実教出版 同 アクティブフィルタの設計 産報出版
伊藤健一 アースとパソコン 日刊工業新聞社 アースと鉄導 同 岩本洋 電子回路計算法の完成 啓学出版 上野大平 リニアIC活用ハンドブック CQ出版社 関根慶太郎 リニアIC回路技法 オーム社 傅田精一 集積回路技術 工業調査会 横井与次郎 IC応用回路アイデア集 誠文堂新光社 山崎英蔵 MOS-LSIとその応用 産報出版 伝田精一 わかる半導体セミナー CQ出版社 近藤次郎 システム工学 丸善 石橋浩司 デジタルテストの作り方・使い方 オーム社 北大路麻 現場で役立つ電子技術百科 同 庄野克房 MOSトランジスタと集積回路の基礎 同 山本外史 デジタル技術 朝倉書店 田中哲郎他 圧電セラミック材料 学社 石田哲朗 改訂半導体素子 コロナ社 高橋清 半導体工学 森北出版 和田正信 同 朝倉書店 広木義順 これでわかったトランジスタ回路 啓学出版 高野政道 これでわかったIC回路の見方・考え方 同 黒部直一 半導体回路 朝倉書店 徳山義 MOSデバイス 工業調査会 久世栄一 システム材料加工学 同文書院 岩崎雄男 解説ICの基礎 東京電機大学出版会 伝田精一 入門ICセミナー CQ出版社 風越三郎 電気材料 共立出版	衣川浩平 コンデンサ 同 英一太 電気電子機器の接着設計 同 小島年彦 FMEA・FTA解析技術 同 杉田松 マイコンの機械応用技術 同 桐山清 FM-8によるパソコン活用プログラミン グ入門 同 田中広 FM-8パソコンプログラミング500題 同 小笠原直幸 電気材料 理工学社 山口次郎 大学課程半導体工学 オーム社 強英世 計測自動化のためのマイコン標準インター フェース 同 大原茂之他 図解マイコンのためのインターフェイス入 門 同 矢出光治 図解マイコンの基礎知識 同 井出裕己 図解マイコン16ビットマイクロコンピュ ータ8086の使い方 同 浅野弘 サイリスタ読本 同 垂井康夫 半導体集積回路入門 同 平井平八郎 現代電気電子材料 同 Richard F. Shea トランジスタ回路・下 丸善 浜口智寿 電子物性入門 同 宇田新太郎 レーザと光通信 同 志村正道 非線形回路理論 昭晃堂 吉田梅次郎 半導体物性工学 同 斎藤忠夫 電子回路入門 同 古川静二郎 電子デバイス1・2 同 桜庭一郎	

Alfred J. Cote 輝形電子回路論	コロナ社	電気電子材料の物性	学献社	PC-8801 BASIC入門	アスキー出版
小林貞男 半導体ICの使い方	産報出版	西巻正郎他 電子工学演習1・2	培風館	PC-8801 N88-BASIC K解析マニ アル	秀和システムトレーディング
白井良明 ロボット	共立出版	松岡節 エレクトロニクス製作実験集	誠文堂新光社	牌正恵他 周辺装置の製作	アスキー出版
立山巖 FETの使い方	CQ出版社	楠本正康 下水は自然をめぐる	第一法規出版	村越康治 応用CP/M	同
柳井久義 基礎電気材料	実教出版	末広憲治 初級技術者のためのマイコンの仕組がわか る本	山梅堂	山口富士夫 コンピュータディスプレイによる形状処 理工学1・2	日刊工業新聞社
松前達郎 電気材料その性質と応用	東海大学出版	新藤義昭 PC 8001 徹底解析	ナツメ社	後藤邦夫 高分子改質技術II	化学工業社
柳井久義 改訂電気材料	コロナ社	刀根兼 ビジネスマンのためのプログラミング教室	東洋経済	紙野桂人 見る環境のデザイン	学芸出版社
田中哲郎 電気材料科学	誠文堂新光社	赤井浩一 土質力学	朝倉書店	M. A. ジャスウオン 境界要素法	ブレイン図書
山中俊一 近代電気材料工学	電気書院	岡田清隆 オシロスコープのすべて	共立出版	安芸咬一 川に想う	今古書院
小川建男 電気材料演習	権書店	河内洋二 M 6800系マイクロコンピュータフェイ スプログラムの作り方	啓学出版	ミカエル, D. グリーンベルク 応用グリーン関数	ブレイン図書
石田春雄 電気電子材料	共立出版	松本吉彦 私だけのマイコン設計と製作	CQ出版社	E. ベッカー 連続体力学	森北出版
今井外次郎 これでわかったトランジスタとSCR IC	啓学出版	久保大次郎 デジタル回路設計スタディ	同	高田秀則 機械設計心得ノート	日刊工業新聞社
川橋猛 新生通信	コロナ社	伝田精一 ICの使い方	同	河内洋二 インターフェイスプログラムの作り方	啓学出版
中西俊一 電磁現象	同	鈴木茂昭 アナログスイッチの使い方	同	青木昌治 応用物性論	朝倉書店
一ノ瀬昇 センサとその応用	総合電子出版	楠生良治 マイコン用計測回路とそのインターフェイ ス	同	相川浩 SCRとその応用	日刊工業新聞社
三原久 電子技術者の信頼性工学	同	同 抵抗コンデンサの使い方	同	高橋清 電子物性	昭晃堂
小郷寛 電子回路演習1・2	共立出版	武田通治 測量古代から現代まで	今古書院	渡辺誠 集積回路	同
菅田栄治 集積回路応用技術	工業調査会	守屋磐村 衣食住の生活科学	秋田文化出版社	柳沢健 輝形電子回路演習	同
橋井与次郎 CMOSデジタル回路マニュアル	ラジオ技術社	工藤文彦他 PC-8001 グラフィックスのすべて	アスキー出版	小川徹 量子エレクトロニクス	同
滝保夫 画像工学	コロナ社	尾上守夫他 アコースティックエミッションの基礎と 応用	コロナ社	福岡英文 電子工学	森北出版
原 央 MOSトランジスタの動作理論	近代科学社	阿部博之 弾性学機械系大学講義シリーズ	同	川村光男 電子力学	同
三船陽介 トランジスタと半導体入門基本18章	電波新聞社	佐藤靖 防錆防食塗装技術	工学図書	宮川 誠 電子物性演習	工学図書
C. R. バレット 材料科学2	オーム社	J. G. ウィリアムズ 高分子固体の応力解析とその応用	培風館	片山満彦 初学者のための電子工学	理工学社
坂田亮 工学基礎材料科学	培風館	五月女正三 エンジニアのための特許入門	コロナ社	伊藤利次 基礎電子工学1・2	昭晃堂
原留美吉 半導体物性工学の基礎	工業調査会	大西清 JISにもとづく機械設計製図便覧	理工学社	アリソン 集積回路	マクrowヒル社
伊藤利次 結晶成長	コロナ社	酒井重基 コンピュータ用語の基礎知識	共立出版	エンジニアリングサイエンス講座 33 悪意決定論	共立出版
小野勇 コンデンサ活用マニュアル	東京電機大学出版局	藤原君恵 マイコンとマイコンをつなぐ法	日本実業出版社	ブルーバックス 536 ロボットは人間を駆逐するか	講談社
滝口圭一 半導体の入門	同	藤井敬雄 PC-8001 マシン語入門	アスキー出版	新編機械工学講座 23 生産工学概論	コロナ社
中野朝安 集積工学概論	コロナ社	小黒正樹 マイコン基礎講座	廣済堂	新体系土木工学 7 構造物の弾性解析	技報堂出版
久保大次郎 トランジスタダイオードの使い方	CQ出版	矢野明一郎 パソコングラフィックス基礎	ラジオ技術社	31 コンクリートの製造の施工	同
藤井陽一 光子電子デバイス	共立出版	高橋清 センサ技術入門	工業調査会	54 地域計画(II)	同
松尾健 レーザホログラフィ	電子通信学会	牌正恵 PC-8801 ガイドブック	アスキー出版	61 道路I 交通流	同
高橋清 革新するエレクトロニクス	工業調査会	工藤文彦他		Eugene J. Hall The Language of Mechanical Engineering in English. Regents J. Rhodes Developments in Thin-Walled Structures 1 Applied Science	Rudolph Szilard Finite Berechnungsmethoden der Strukturmechanik Bt.1 Stabwerke. Ernst Knut Winter
黒部貞一 電子工学概論	朝倉書店				
石黒美穂 改訂電子工学	コロナ社				
小山恒夫					

Erläuterungen zu DIN 1080	Ernst
Stiglat Klaus	同
Platten	同
Danie L. Plung	
A Guide for Writing Better Technical Papers	IEEE Press
Don R. Hansen	
Multiobjective Decision Analysis With Engineering and Business Application.	Wiley
T. M. Charlton	
A History of Theory of Structures in The Nineteenth Century.	Cambridge
G. C. Sih	
Analytical and Experimental Eracture Mechanics.	Sijthoff & Noordhoff

産 業

包装技術便覧	日刊工業新聞社
家永泰光	
器物文化の起源	古今書院
C. O. サクナー	
農業の起源	同
玉城哲	現代評論社
星寛治	同
北の農民 南の農民	同
古島敏雄著作集 6	
日本農業技術史	東京大学出版会

芸 術

眼鏡種	葦野房
山川岩之助他	
楽譜指導ハンドブック	大修館書店
松本芳三	
楽譜のコーチング	同
キャサリン・トムソン	
モーツァルトとフリーメーソン	法政大学出版局
佐々木吉雄他	
スポーツ審判ハンドブック	大修館書店
木下秀明	
日本体育史研究序説	不昧堂出版
生江義男	
興河の蹟	三省堂
近代体育文獻集成	
第1～第7巻 総論1～7	日本図書センター
第8～第12巻 体操1～12	同
第13～第14巻 武術体操1・2	同
第15巻 兵式体操	同

寄贈図書紹介

このたび下記各位が、図書を寄贈して下さいました。厚くお礼申し上げます。ついでには末長く図書館に備付け活用させていただきます。

東北建設協会

ヒブリア 51

岩波クラシックス	
33 ベートーベンの生涯	岩波書店
40 モーツァルトの手紙 上	同
41 同 下	同
日本古寺美術全集	
13 金剛寺と百野 照野の古寺	集英社
22 京の五山	同
新体育学講座	
35 嘉納治五郎	遼通書院
岩波美術館テーマ館	
10 建てものともち	岩波書店

語 学

フレックスナーアメリカ英語事典	
秀文インターナショナル	
ペンギン英語辞書辞源辞典	同
英語基本語彙辞典	中教出版
日英故事ことわざ辞典	
朝日イブニングニュース社	
ドイツ基本語活用辞典	第三書房
ワープロ革命	朝日新聞社
ニュートン別冊ワードプロセッサのすべて	
教育社	
英検全問題の20年総集編 1～4 懸資料編	
日本英語教育協会	
新村出版	
広辞苑	岩波書店
同 第二版補訂版	同
山村三郎	
英語表現の実際	研究社
ジョン・サーノフ	
絵本英語辞典	晶文社
柴田晶治他	
ドイツ人が日本人によく聞く100の質問	三修社
秋山寛夫他	
外国人が日本人によく聞く100質問	同

藤堂明保編	
学研漢和大学典	学習研究社
田崎清忠	
田崎のアメリカンライフ	研究社
山田政美	
現代アメリカ名詞辞典	筑竹出版
梅田修	英語の語彙事典
	大修館書店

文 学

ゼロ働きゴージュ	三修社
有馬武郎全集 11・12	筑摩書房
戸田幸	北京原人の謎
	社会保険出版社
安田章一郎	
新版GMホブキンス研究	清水弘文堂
アララギ	
第24～26巻 第1～12号	アララギ
筑摩世界文学大系	
59 ブルーストⅢ	筑摩書房
82 ベケットプランシヨ	同
ブルーバックス	
532 推理小説を科学する	講談社
岩波クラシックス	
30 白秋詩抄	岩波書店
31 地獄の季節	同
32 小林秀雄初期文芸論集	同
ロマンロラン全集	
9 信仰の悲劇	みすず書房
37 二人が出会う フロイラインエルザ	
	同
40 書簡集 シュトラウスとロマンロラン	同
リヒャルト	同
John Donne and The Common Law	
	雄松堂書店
Donne's Positivism: Views of Nature and Law in The Sermons and Other Prose	
	同

《新着図書案内コーナー》

理工共通図書費から、インタープレス社の

1. 科学技術25万語大辞典
2. 科学技術活用大辞典

を購入しました。どちらも英和・和英の2冊のセットとなっています。

前者は、JIS用語、文部省学術用語を中心に、エレクトロニクスを中心とする最新技術分野も含めて25万語が網羅されています。英語文献の読解と英語専門用語の勉強に全学生の利用を待っています。

後者は、英語らしい英文の作成、日本語らしい和訳のために豊富な例文を中心とした活用大辞典です。5年生諸君を悩ます卒研のSummary作成に多いに役立つと思います。

(図書委員会)

白川ダム工事誌	建設省東北地方建設局
白川ダム図集	
白川ダム写真集	
いわき電報電話局殿	
東北の電報電話・公社30周年	
	電気通信共済会東北支部
京浜港工事事務所殿	
	横浜港路築史

運輸省第二港湾建設局京浜港工事事務所	
サンケイ出版殿	
吉田忠雄	
櫻の玉様ニッポン	サンケイ出版
小名浜港工事事務所殿	
小名浜港ケーソンヤード史<半世紀の道程>	
運輸省第二港湾建設局小名浜工事事務所	
日本ソーダ工業会殿	

日本ソーダ工業百年史	日本ソーダ工業会	マーコム・インターナショナル殿	デラックス東京都区分地図	塔文社
吉田工業殿		半導体百科	松尾誠 トラジスタラジオの作り方	金剛社
吉田忠雄	なしたもんだの経営	マーコム・インターナショナル	浅嶋武雄	電気製図
NHK いわき放送局殿	千広企画出版	建設省土木研究所企画部殿	編森力 同	コロナ社
NHK年鑑・Radio & Television	千広企画出版	耐風耐震構造専門部会第14回合同部会講録	金内栄太郎	実教出版
Yearbook' 82	日本放送協会	土木研究所	新しいJISによる電気製図	啓学出版
福島県警察本部殿		国際電信電話株式会社殿	福島テレビ株式会社殿	
福島県警察史 2	福島県警察本部	衛生通信年報・昭和56年度	福田英雄	単北の交通史
電装材料協会殿		国際電信電話(株)	PHP 研究所殿	TBS ブリタニカ
壁紙百年史	電装材料協会	国際電信電話年報 昭和56年度	松下幸之助	PHP 研究所
日本工作機械工業会殿		旭硝子工業技術奨励会殿	日本と日本人について	PHP 研究所
母なる機械30年の歩み	日本工作機械工業会	旭硝子工業技術奨励会研究報告 vol.40	電気学会殿	
日本鉄道建設業協会殿		1982 旭硝子工業技術奨励会	がいし	電気学会
会員名簿 1983	日本鉄道建設業協会	日本土木工業協会殿	若松紀志子・光一郎殿	
日本アイビーエム株式会社殿		P. チョート & S. ウォルター	若松紀志子	
朝水版一郎著作集		荒廃するアメリカ	曹と彩り 若松紀志子随筆集	
3 物理学の周辺	みすず書房	荒明殿	若松光一郎 1965~1983 碑と曹	
5 科学者の社会的責任		荒明殿		
6 開かれた研究所と指導者たち		桜田芳樹(本校教官)	広島三郎殿	
9 マクロの世界とミクロの世界へ		宮本表孝	広島三郎	
10 量子・電気力学の発展		詩の教室	ヒンズークシュ 真つたが中	講談社
清文社殿		佐伯晴郎	K 2 登頂連連と友情の山	実業之日本社
昭和58年日本の白書	清文社	イエスの学び	盛岡工事局仙台工事事務所殿	
東京電力株式会社殿		佐藤寿雄(元・本校教官)	東北新幹線(豊折・有壁間)地質図	
東京電力三十年史	東京電力	幸出彰	日本国有鉄道仙台新幹線工事局	
		工学と製図	福島県社会福祉課殿	
		電気工学実験 基礎編	福島県社会福祉史	福島県社会福祉課
		新制第三角法図学	いわき水道局殿	
		電気理論!	いわき水道史	いわき市水道局
		赤池憲 電気製図		
		坪内英季		
		超小型コンピューター入門		
		林武志 保護絶電器読本		

当館のあゆみ

58.7.15 第3回図書委員会

1. 購入雑誌の改廃について
2. 理工系共通図書の選定について
3. 選定図書のP. R.について

58.10.11 研究紀要原稿審査

58.10.19 第4回図書委員会

1. ビブリア51号の編集案
2. 読書状況追跡調査について

58.11.24 第2回学生図書委員会

1. 全学年にアンケート実施
「読書に関するアンケート」